

昭和28年6・26水害は 合志でも被害続出

青山 隆幸 議員



青山 合志町史によると白川大水害は、「村内でも被害続出した。損失1億5700万円」と記載がある。今回の西日本豪雨は本市でも他人事ではない。水害を体験された方々の記憶をたどって、本市の防災対策に生かせないものか。

総務部長 本市では塩漬川等があるが、河川改修も済んでおり大規模な災害が起こるとは考えにくい。しかし今回の西日本豪雨は、線状降水帯が長時間同じ位置に停滞したことによる集中豪雨で被害が拡大したものであり、本市には急傾斜地危険区域もあり被害が想定される。本年度から「地区防災計画」を各行政区に作成をお願いしている。その中で、ワークショップ・街歩きなどを通じて先輩方にお話を聞き、地区の特性を生かした「地区防災計画」作成の参考にしたい。

二地域コミュニティについて
青山 栄地区でのコミュニティ作りについて伺う。

教育部長 少子高齢化が顕著にな

り、行政区を中心とした地域活動は担い手不足などで運営が難しくなっている。一定の区域のコミュニティ形成は、地区が抱える諸課題の解決に向けて望ましいと考える。

青山 福岡県筑紫野市御笠コミュニティを視察した。20の自治会で人口約一万人が集合した同コミュニティでは、独自の政策提案でコミュニティバスの運行が来年度から計画されていた。また、コミュニティの役員は自治会役員を引退された方が務め、担い手不足はない。本市でも参考に

生涯学習課長 我々も視察したが、防犯・防災活動あるいは、福祉活動等それぞれの活動団体が地域課題を発見して、行政の対応を待つ姿勢でなく、住民自ら主体的に取り組んでいるように感じた。



御笠コミュニティ総会資料

通学路等の安全 対策の強化を！

濱元 幸一郎 議員



濱元 大阪北部地震の際に、高槻市の小学校でブロック塀の下敷きになり小学4年生の女児が死亡するという痛ましい事故が発生した。本市の小中学校をはじめとする公共施設と通学路における危険箇所の実態調査の結果と今後の対策は。

教育部長 学校施設のブロック塀について緊急点検を行ったが該当するブロック塀はなかった。ブロック塀以外では西合志東小学校の小屋がコンクリートブロックでできており緊急性はないが、今後解体撤去を行う。通学路においては著しいひび割れ、破損、または傾斜、傾きなどが生じているブロック塀等が全体としてブロック塀で34カ所、家屋・倉庫・屋根瓦等で3カ所、その他、石垣の上にブロックを積んである塀などが3カ所あった。通学路にある危険なブロック等は早急な安全対策が必要だが、民間の所有物なので現時点では早急な撤去や補強等については困難と言わざるを得ない。

濱元 通学路に危険箇所が少なくと



ブロック塀

も40カ所ある。熊本地震のような大きな地震が通学時間に起こったら大変なことになる。一刻も早く対策を講じるべきだ。その一つとして、国や県の交付金を活用して、自治体独自の撤去費用の補助制度を創設する動きが広がっている。ぜひ本市でも、民間のブロック塀の撤去、フェンス設置などへの独自の補助制度を創設し早急に安全対策を講じるべきだ。

都市建設部長 現在本市では、民間のブロック撤去・改修に対する補助制度を設ける場合における対象箇所数や支援策について情報収集を行っている。国の交付金メニューの精査、県費の支援制度の有無や内容、他自治体の実施状況を参考に判断していきたい。

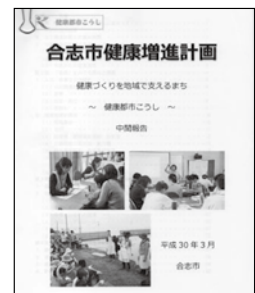
受診率向上に向けた 新たな取り組みを！

神田 公司 議員



神田 合志市健康増進計画の中間報告の中で「特定健診の受診率の減少傾向」とあるが原因は。

健康福祉部長 受診をされない方の理由は、「必要性を感じないから」「面倒だから」が主な理由である。そのほとんどが通院中、あるいは「自分は健康だ」と認識し特定健診の関心が薄いのではないかと考えている。



神田 市民との顔が見える関係を構築し、市民を健診へと促す役割は保健師だと思いが配置の体制は。

健康福祉部長 保健師は健康づくり推進課、高齢者支援課の包括支援センター、女性・子ども支援課に配置している。保健師が地区割して回るのは確かに一番受診率向上につながるかと考える。

神田 特定健診の受診率向上のための具体的な取り組みは。

健康福祉部長 菊池養生園で集団検診を行っており、合志市内12カ所の医療機関でも個別の受診ができる。ここ2、3年受診率が上がっていないので、危機感を持って取り組む。

神田 山鹿市など50%の受診率を達成している自治体もあり、条件は違うが、市民と保健師とのフェイス-toフェイスの勧奨が増えている。新たな策は。

健康福祉部長 本市では幸い専門機関と協定を結んでおり、すぐにできることは取りかかりたい。その中で、菊池養生園は健診先として、協力をしていたきたい。

神田 菊池養生園は、本市と菊池市が運営する一般的な医療機関なのか。それとも外来診療を含めた健康診断の専門的医療機関として位置づけるのか。

健康福祉部長 菊池養生園は、本市と菊池市の一部事務組合で、公立の健診機関である。合志市民のための健康の取り組みを行うのが大前提にあると認識している。

自治体戦略2040 構想について

松井 美津子 議員



松井 自治体の将来像についてスマート自治体へ転換の考えは。

総務部長 業務委託やAIやロボティクスによる事務の効率化を検討していく。

市長 スマート自治体は効率的な予算、少人数でサービスを維持していくことになる。2030年ごろには、民間委託や、指定管理の制度も含め、ノンストップサービスが予想されるので議論を続けていきたい。

インターネットと部落差別

松井 自治体によるモニタリング事業（ネット上の差別を発見する事業）について本市の見解と取り組みを伺う。

教育部長 県でもモニタリングの研究をしている。今後は機会をとらえ、県や他市町村と協議、研究していきたい。



人権推進研究大会

LGBTの配慮

松井 LGBTの職員研修の実施や窓口での申請書などの性別欄の削除への取り組み。また選挙投票時の配慮やフレンドリー宣言について伺う。

総務部長 人権教育職員研修の中で今年度準備を進めている。

市民生活部長 窓口の申請書については、14市都市住民基本台帳事務研究協議会、菊池地区窓口事務研究協議会で議題としたい。

選挙管理委員会事務局 投票所入場券の性別欄は現在なくしている。

総務部長 LGBTだけの宣言だけではなく、人権問題の一つとして、啓発を進めていく。

松井 新設校の制服について。

ふるさと納税について

松井 返礼品のトレンドが返礼品主導型から使途選択型について。

総務部長 平成28年4月から、ふるさとメニューお助け隊ができた。